

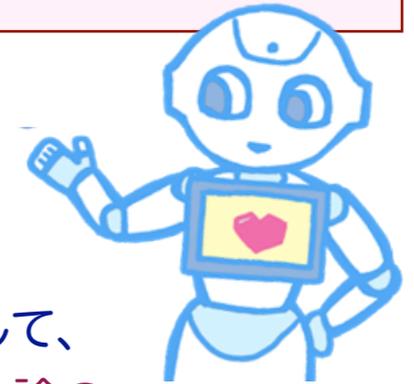
●栄養教諭も学習指導要領の改定に関係があります

とくに、プログラミング教育の指導では、料理や調理実習との関係が深くプログラミング的思考を理解するための説明に、料理がよく使われます。

プログラミングに求められる思考は、主に5つの能力とされています。

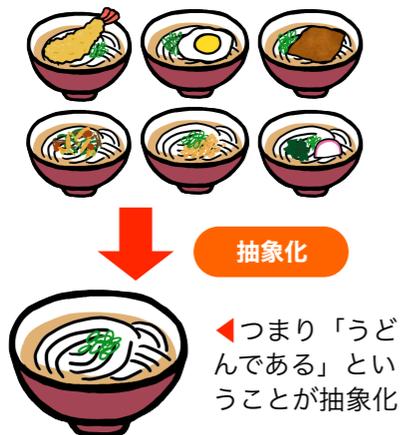
- ①抽象化する能力 ②分解して理解する能力 ③順序立てて考える能力
- ④分析する能力 ⑤一般化する能力です。

学校給食を作っている栄養教諭のみなさんは、このような能力を毎日フルに活用して、調理指示や作業工程表などを作成し、調理員に指示をだしています。つまり、**栄養教諭の仕事そのものがプログラミングと同じで、プログラミング教育の指導者としては学校内で一番適しています。**



抽象化する能力

たとえば「天ぷらうどん」「月見うどん」「きつねうどん」「山菜うどん」など、6種類の異なるうどんがあった場合に……。



分解して理解する能力

月見うどんを分解した場合は「めん」「だし」「卵」「ネギ」という素材の組み合わせで成り立っていることが理解できます。



順序立てて考える能力

まずはネギを刻んで、次にだしを準備、うどんをゆでたら、どんぶりによそい、卵を落とす。料理方法を考えるのが順序立てて考える能力です。



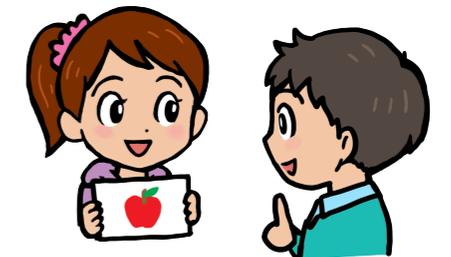
分析する能力

「かつお出汁」と「昆布出汁」のどちらがめんとの相性良いのか、食べる人の口に合うのかなど、さまざまな要素を検討するのが分析です。



方法を一般化する能力

たとえば「リンゴ」という概念を伝えるとき、「赤い果物」と説明すると、「イチゴ」と勘違いされてしまうかもしれないし、「丸い果物」では「モモ」や「ナシ」と間違えてしまいます。



▲今回のうどんなら、ただ「おいしく作る」ではなく、誰が作っても同じように作れる仕組みを考えます。